(海外・国内）インターンシップ報告書　　2016 年 11 月 29 日提出

氏名	山口 智之
所属	人獣共通感染症リサーチセンター　バイオリソース部門
学年	博士課程４年
活動先名	世界保健機関 本部、スイス　ジュネーブ
期間 ①　（出発日―帰札日） ②　(インターンシップ実施開始日―終了日)	① 2016 年 6 月 18 日 – 8 月 14 日 ② 2016 年 6 月 20 日 – 8 月 12 日

活動目的及びインターンシップ先を選択した理由

細菌およびその他病原体の薬剤耐性は、ヒトのみならず動物や食料産業の分野や国境を超えた連携が必要な問題として近年一層重要視されてきている。報告者はこれまで薬剤耐性細菌に関わる研究あるいは職務を経験してきたが、薬剤耐性細菌の蔓延に対し実際に講じられている対策について興味深く感じていた。現在、薬剤耐性病原体に対して、世界保健機関 (WHO) では国際連合食糧農業機関 (FAO) や国際獣疫事務局 (OIE) を含む他分野の国際機関と連携してその対策に取り組んでいる。自身の専門性を活用でき且つ国際的連携と分野横断的連携の双方の実際を理解することのできる絶好の機関であると考えたことから、薬剤耐性菌のサーベイランスに関わるプロジェクトを担当する WHO 本部内の部署をインターンシップ先として選択した。本インターンシップでは世界保健機関本部での感染症対策に関わる実務の体験を通し、専門性を活用するキャリアパス設計の参考とすることを目的とした。

活動内容・成果

世界各国の専門家によって構成される諮問委員会である Advisory Group on Integrated Surveillance of Antimicrobial Resistance (AGISAR) を担当する、Department of Food Safety, Zoonoses and Foodborne Diseases 内の Foodborne and Zoonotic Diseases Unit に加わり主に AGISAR に関連する以下の業務に従事した。

- AGISAR による世界各国での薬剤耐性菌サーベイランスプロジェクトの進捗状況の取りまとめ、及びユニット内の情報共有のためのプロジェクトリストの随時更新
- 実施中の、または終了した各プロジェクトの代表研究者へ進捗・成果報告書の提出依頼。
- 各プロジェクト実施後の効果測定を行うためのフィードバックアンケート、及

び各代表研究者の略歴を尋ねるためのフォームの作成と、これらへの記入依頼。

- 進捗・成果報告書、フィードバックアンケート、代表研究者の略歴フォームの提出状況管理
- 各国プロジェクトをまとめる総合報告の骨組みと同報告書に各国プロジェクト概要を記載するための資料の作成。
- 各代表研究者から送られたプロジェクト進捗状況と略歴の総合報告への反映。
- 進行中のプロジェクトについて、AGISAR メンバー・ユニットスタッフ・代表研究者を交えた電話会議への参加
- 2016 年度採用分応募課題の整理
- 第 7 回 AGISAR 年次会議（本年 10 月に実施）の運営準備会議への参加
- 各国プロジェクトから集まった薬剤耐性細菌に関するデータ解析の補助

また、上の業務に加え、今後ユニット内の業務に役立てることを目的として以下を発案し作成した。

- AGISAR や各国プロジェクト関係者、関連性の高い他のシステムのメンバーを統合管理するためのデータベース
- 応募課題を管理するためのデータベース

その他、以下の活動をインターンシップ期間中に行った。

- WHO の進める「人獣共通感染症としての結核 (Zoonotic Tuberculosis)」対策プロジェクトについて、担当職員とその概要や現在の状況を含めた情報交換
- Department of Food Safety, Zoonoses and Foodborne Diseases 内の他ユニットと進行状況などの情報を交換するための報告会への出席
- 同部が所属する Cluster for Outbreaks and Health Emergencies のブリーフィングへの参加
- WHO 本部での職員・インターン向けセミナーへの参加
- WHO 本部内で開催された Joint FAO/WHO Core Expert Meeting on Verotoxin/Shigatoxin producing *E. coli* の見学
- ジュネーブ市内で開かれたセミナー、会合、フォーラムおよび国際機関職員の交流会への参加

インターンシップ期間の最終日（8 月 12 日）には、所属部門を含め WHO 本部職員に向けて、期間中の活動報告と、報告者のこれまでの研究・職務経験の紹介を行った。

左から WHO 本部のメインビルディング、所属していたユニットのメンバー、最終日に行った発表の様子

インターンシップ期間終了後の活動

本インターンシップに関連した活動として、本年 10 月に米国ノースカロライナ州開催された第 7 回 AGISAR 年次会議への招待を受け、リソースアドバイザーとして非公開セッションを含む全日程に出席した。会議では全体セッションへ参加したほか、現在計画中の WHO、FAO、OIE 共同プロジェクトについての詳細について AGISAR メンバーおよび他のリソースアドバイザーとグループディスカッション形式で話し合いに加わった。

第 7 回 AGISAR 年次会議の参加者

今後のキャリアパス設計への影響

国際機関の活動は広報や報道によって広く伝えられているが、その発表に至るまでに内部で日々実際に行われている業務については聞き及ぶ機会は少ない。そうした国際機関の実務を自身の専門性と直接的に関連する分野で体験しえた本インターンシップは大変有意義なものであった。また活動期間中には WHO 内各部署の職員から就職までの体験や求められている技能などのアドバイスを得ることもでき、国際機関への就職を視野に入れたキャリアパスを考える上で非常に有益な情報を得ることができた。

後輩へのアドバイス

WHO 本部はフランス語圏のジュネーブ市内にあるが勤務中は英語が使われるため、

会話を意識した英語力を身につけると良いと感じた。また、デスクワークが中心ではあるが、自身の仕事のみに閉鎖的にならず積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が重要である。

WHO の業務は多岐に渡るため、自身の部署と異なる業務に従事する職員または他のインターンと交流する機会を得ることができる。人脈形成にとても有益である上、自身の視野を広げる新鮮な体験になるのでこの機会は逃すべきではない。また、ジュネーブには WHO の他にも多くの国際機関が事務所を置いているため、WHO 本部でのインターンシップ活動を通して他の機関の職員との交流の機会を得ることも珍しくないので、これらも活用するとより充実した経験になるはずである。

そしてなにより、これから WHO 本部でのインターンシップを希望する方には、自らの専門性や能力に自信をもって、業務と交流を楽しんでほしい。

謝辞

本インターンシップの準備段階から期間中、さらには活動を終えた後も大変細やかなご指導、お心配りをくださった担当監督・湊夕起様と Department of Food Safety, Zoonoses and Foodborne Diseases の皆様に心より感謝申し上げます。

指導教員確認欄	指導教員所属・職・氏名 バイオリソース部門・教授 鈴木　定彦　　印

※１　電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。
※２　インターンシップ先の担当者が活動内容を証明した文書（署名入り）を提出して下さい。
※３　本報告書はリーディングプログラムキャリアパス支援委員会で内容を確認します。その後、教務委員会で単位認定を受けることになります。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当
内線：9545　e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp